

Dec. 1935.

233

- 2) 葉は卵形乃至狭卵形. 裏面は短毛あり (台灣). タイワンナギナタカウジュ
 _____ E. Oldhami HEMSL.
- 2) 葉は卵形乃至廣卵形. 裏面は殆んど平滑 (本州. 九州) フトボナギナタカウ
 ジュ _____ E. Oldhami var. nipponica OHWI.
- 1) 苞は心臟狀卵形乃至廣円形. 中央部又はそれ以下にて巾最も廣し. 基脚円形. 先
 端の芒は 1-2 mm.
- 2) 花序は密. 花軸は前面よりは見えず. 萼齒は短芒に終る.
- 3) 苞は心臟狀円形. 先端は稍漸次芒に細まる. 中央より下部巾最も廣し. 花
 は大. 紫色長さ 6-8 mm. (朝鮮) ニシキカウジュ _____ E. splendens NAKAI.
- 3) 苞は廣円形. 中央部巾最も廣し. 先端は急に芒と成る. 花は小. 長さ 4 mm.
 前後. 淡紅紫色. (南千島. 北海道. 本州. 九州. 四國. 朝鮮). ナギナタカ
 ウジュ _____ E. Patrini GARCKE.
- 2) 花序は花後著しく疎. 花軸は花序の正面より見る事を得. 萼齒は鋭けれど芒
 と成らず.
 (本州) コナギナタカウジュ _____ E. interrupta OHWI.

尙 HANDEL-MAZZETTI に依ると E. Patrini GARCKE の花の大きなものは E. Feddei
 LÉV. と云ふものらしいとの事である.

14) カウバウモドキ — Festuca sibirica HACK. 即ち Leucopoa albida V. KREUZ.
 et BOBR. が滿洲の滿州里に産する. 佐藤潤平氏の採集である. 此植物の外観はすこぶ
 る奇抜なもので 相當大きな株に成るらしく 匍枝等は見られず 莖の下部には 枯れた葉
 鞘が澤山ついて居る. 葉はカウバウそつくりで花穂の色も光澤もよく似て居るが花序
 は一層密で殆ど穂狀をなして居る. PIPER は Leucopoa と云ふ屬は若しそれ以前の屬
 に含ませるのならば Poa にであつて Festuca にはないと考へて居るが葉鞘の狀
 態. 葉舌に毛がある點. 花に長軟毛のない點. 護穎の龍骨が不完全な點等別屬として取
 扱はないなら. むしろ Festuca とした方が穩當と思はれる.

タネガシマムエフラン九州高隈に産す

田代善太郎

タネガシマムエフラン (*Aphyllorchis tanegasimensis* HAYATA.) は早くも 1891 年
 に種子島に發見せられ、早田氏に依つて研究された植物なるが、正宗嚴敬氏はこれを



タネガシマムエフラン

屋久島にて採集せられ、台北帝國大學紀要第十一卷にて發表さる。筆者も亦 1919年9月25日に屋久島小瀬田にて採集し、これを京都帝大植物標品庫に保存せり。本年9月14日鹿屋農學校教諭堀金義氏に依り大隅肝屬郡上高隈村假谷の山地にて採集せらる。これ九州本土に於ける第一の發見なり。ムエフランに比して唇瓣の形態は異なれども一見花の數の多きを以つて識別せらる。

尙ほ同氏は久しく不明なりし高隈山に於けるカネコソダの産地を探索せられたり。

抄 録

遠藤誠道氏：——氣候狀況指示者としての日本更新世植物群 (S. YENDO : —— A pleistocene Flora of Japan as an Indicator of Climatic Condition, in Jour. Geol. Soc. Jap. XLII. 1935. p. p. 658—674.)

著者は塩原木葉石層なる塩原層のフロラを研究し、本フロラは更新世のものであつて、當時海面上 5,600 m. の處にありし淡水湖の沈積物に埋藏されたものであり、フロラの性質は現今本州中部 1500 m. 或は蝦夷島の中南部にあるものに彷彿たるものであるとなし、當時塩原海面上 5,600 m. にありしフロラは今日同處海面上 1500 m. のフロラに相當するものであるから、更新世の當時は其地方氣温は今より攝氏 5 度乃至 5.6 度低かりしものであると結論せり。

塩原地方は第三新紀の鮮新世には淺海にして塩原第三紀層なるものを、若き古生代地塊の上に沈積しつゝありしが、其終りには甚しく淺海と變じ、最後に此沈積層を變動せしめ凸凹の地形を成し、此地形が殆ど平坦面化せし頃は第三紀の終りであ